

大阪市立今福小学校 校長室便り 平成28年度 第3号平成28年6月2日

いのちいちばん



初夏の太陽のもと、子どもたちは元気に活動しています。

日差しが真夏のような日もあった5月ですが、遠足をはじめ、校外学習、体験学習、出前授業など、たくさんの学習をしました。5月の土曜授業は、科学実験も加わった劇鑑賞がありました。保護者の皆様、ご来校ありがとうございました。



学校の西の庭に、池があります。

5月に、管理作業員さんが、真夏に向けて、池の掃除をして水草などをきれいにしてくださいました。

すると、池の水が澄んで、底までよく見えるようになりました。

これから、また、スイレンの茎や葉が伸びると思います。楽しみですね。(写真は、掃除をする前の池の様子です。)

◇◇◇5月の児童朝会で、百人一首の中から、二首紹介しました。

「春すぎて 夏來にけらし 白妙の
衣ほすてふ 天の香具山」 作者(持統天皇)

うたの意味: 春が過ぎ去って、夏が来てしまったらしい。真っ白な着物を干すという天の香具山。さわやかな夏の訪れの感動をうたっています。

この歌を紹介した理由は二つです。

3年生が音楽の時間に「茶つみ」を歌っているのを聞いて『茶つみ』の歌、夏も近づく八十八夜は、立春から数えて八十八日、今年は5月1日。もう、初夏だなあ。子どもの声から元気をもらった。」と、思ったからです。



もう一つの理由は、昨年度4年生の教室に行ったとき、子どもたちが百人一首を一生懸命ノートに書いていました。その子どもの学ぶ姿を思い浮かべたからです。

いつも、子どもの歌声や笑顔、そして、学ぶ姿から元気をもらっています。

児童朝会で、もう一首、紹介しました。百人一首の中で、めずらしい、友だちのことをよんだ歌です。

「めぐりあひて 見しやそれとも わかぬまに

雲がくれにし 夜半の月かな」 作者(紫式部)

うたの意味: めぐりあって、見たのかどうかわからないうちに、雲に隠れてしまった夜中の月。久しぶりに会ったのが、あなたかどうかもはつきりしないうちに、あわただしく帰ってしまわれたことよ。幼いころの友だちとのつかの間の、名残惜しい気持ちをうたっています。

この歌を紹介した理由は、友だちを大事にする今福小学校の子どもたちを思い浮かべたからです。

さあ、季節は、梅雨に近づきますが、「いのち いちばん」で、子どもたちともども、がんばりたいと思っています。どうぞ、ご家庭でも、子どもたちに「はげましの言葉」をお願いいたします。

主な学校行事や学年の取り組みなど、学校ホームページを更新しています。
ぜひご覧ください。

<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e691543>